

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年11月9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873600613		
法人名	社会福祉法人 樺山会		
事業所名	高齢者グループホーム 和みの家	ユニット名	A棟
所在地	〒311-1426 茨城県鉾田市樺山579-1		
自己評価作成日	平成24年5月7日	評価結果 市町村受理日	平成24年11月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0873600613-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年7月3日	評価確定日	平成24年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>診療所のほか特別養護老人ホームに隣接されており、施設入居者と通所介護利用者との交流の場として、地域の方に広く開放させていただいています。 住み慣れた地域で、なじみの関係を保ちながら、ゆったりとした流れの中、利用者の皆様の「今」を大切に、安心した生活が送れるよう季節の行事を取り入れながら、寄り添い、喜び、楽しみを共に「笑顔」を絶やさない様過ごしています。 庭も広く、四季折々の草花や野菜を作り季節感を味わっています。また、中庭には芝生があり、レクリエーションを楽しんだり、足湯がありリラックスできるようになっています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の居間は天井が高く四方から光が入るため、明るくゆとりのある空間となっている。 庭に四季毎に楽しめる木や花を植えるとともに、職員が利用者のための散歩道を造って寛いだ時間を過ごせるよう配慮している。 居間続きのサンルームとベランダにテーブルと椅子を置いたり、居間にある足湯の設備やフットマッサージ機、ソファで利用者同士がお茶を楽しんだり、おしゃべりをしながら居心地よく過ごせるように工夫している。 利用者一人ひとりの居室にトイレを設置し、利用者のプライバシーに配慮しながら排泄の自立に向けた支援に努めている。 職員は利用者が野菜などの下ごしらえや献立の読み上げ、配膳、下膳、テーブル拭き、食器洗い、食器拭き、米研ぎなどの役割を交代で担い、食事の準備や後片付けに積極的に係わりながら食事が楽しめるよう支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・設立当初からの「やすらぎの家をめざして」という理念のほか、職員で考えた『住み慣れた地域、安全で安心な生活、憩いの場』という理念を事務所に掲示し、朝礼時やスタッフ会議時に読み合わせし、職員間で共有を図り、初心を忘れない様心がけている。	法人の理念である「やすらぎの家をめざして」を基本として、職員で話し合っ事業所独自の「住み慣れた地域、安全で安心な生活、いこいの場」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成して事務室に掲示するとともに、管理者と職員は朝礼時や職員会議時に唱和し、共有しながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・市の敬老会に参加したり小学校の運動会に参加している。また、施設での納涼祭を行う際に近隣の方に呼びかけを行い多数の参加を頂いている。 ・近隣住民の方から野菜等を頂くことも多く、保育園児も散歩時に立ち寄りていかれることもある。	利用者は市主催の敬老会に出席するとともに、小学校の運動会にPTAの父兄の送迎を得て参加している。 事業所の納涼祭に近隣の住民が参加するとともに、旬の野菜を届けてもらったり、散歩や買い物時に挨拶を交わすなど、日常的に地域住民と交流している。 職員は買物時などに住民から認知症についての相談を受けている。 保育園児が散歩時に立ち寄りたり、事業所の敬老会に参加している。 ボランティアが雑巾作りや歌、踊り、ゲーム、リハビリ体操などで来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・相談は随時受け付けており、最近では電話での相談が多く、必要に応じ居宅の介護支援専門員に引き継いでいる。 ・地区民生委員さんをお願いして、高齢者家族にパンフレットを配布していただくこともある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議において、利用者の現在の状況、行事内容、入居待ちの状況の説明をし、施設側からの相談をしたり、出席者からのアイデアを募ったり質問や意見の交換をしている。	運営推進会議は年度初めに年間の開催日程を決め、家族会の代表や市職員、地域包括支援センター職員、地域住民の代表、民生委員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の状況や行事、家族等へのアンケートの結果を報告するとともに、運営上の問題や外部評価の結果等を報告し話し合っている。 市職員から研修会などの情報を得るとともに、家族等には介護報酬改定の事前説明をして理解を得たり、民生委員から認知症についての質問を受けて説明するなど、双方向的な会議となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に参加していただいている。 ・市町村と家族の相談の場の提供をしたり、生活保護者等が自宅に外出される場合に、一緒に同行していただくことがある。 ・認定更新の際に市町村担当者に情報の提供を行ったり、入退所の状況を随時報告している。 	<p>市担当者が毎回運営推進会議に出席している。</p> <p>管理者は市に出向いて事業所の状況を伝えるとともに、要介護認定更新時に市担当者に情報を提供している。</p> <p>市担当者と家族等との相談の場に事業所の相談室を提供するとともに、生活保護を受けている利用者の自宅への外出や墓参りに、市担当者に同行してもらうなど協力関係を築いている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・法人で『身体拘束ケアマニュアル』を作成している。 ・代表者が研修に参加し学んできたことを、勉強会を開きスタッフ間の共有を図っている ・利用者が外出したいとの訴えがある時は、一緒に出かけるなど出来るだけ自由に散歩したりできるよう対処している。 	<p>身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、外部研修に参加した職員の報告を基に勉強会を実施して全職員が身体拘束における弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。</p> <p>道路に面しているため玄関は施錠をしているが、利用者は植栽された四季折々の木や花を楽しみながら散歩ができる中庭に自由に入りをしている。</p> <p>職員は利用者が外出の素振りを見せたり訴えがある場合は、寄り添ったり一緒に出かけている。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員で、認知症ケアマニュアルを作成し、事務所内の目に付くところに掲示し、自覚がなく行ってしまう行為や、気づかずに言う言葉等を常に認識し注意している。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・代表で研修に参加し学んできたことを勉強会を開き、スタッフ間の共有を図っている。 ・成年後見制度について、ご家族の希望で関係者の方が調査に来られたこともあり、出来る限りの支援を行っている。 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居契約書、重要事項説明書に基づき説明し、質問等もいただき、充分理解していただいた後同意書に署名、捺印していただいている。 ・解約時においても、説明を行い理解したうえで解約届にサインを頂いている。 	/		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の方には、玄関に意見箱を設置しているほか、面会時にも意見を頂いている。また、年1回無記名によるアンケートを実施してケアの向上に努めている。 ・利用者については、月1回生活安全委員会を開き、食事のメニューから、外出先の希望等の話を聞いたりして予定を立てたりしている。 	<p>重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。</p> <p>月1回利用者と職員で「生活改善委員会」を開催して食事の献立や行事、外出先の希望、前月の反省などを話し合って運営に反映させている。</p> <p>家族等との面会時に話を聞く機会を設けるとともに、年1回無記名のアンケートを実施し、結果は家族等に報告するとともに運営推進会議で報告している。</p>	/	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の朝礼や、スタッフ会議において意見や要望、提案を聞いている。 ・年1回職員アンケートを実施している。 	<p>管理者は朝礼や月1回の職員会議時に職員の意見や要望、提案を聞く機会を設けるとともに、勤務表作成時に休暇の希望を確認し調整をするなど、常に話し易い環境づくりに努めている。</p> <p>職員用休憩室や研修室を確保して勤務環境の整備を図るとともに、年1回職員アンケートを実施して夜勤帯や緊急時、震災時の不安など、出た意見や要望はアンケート検討会議を開催して検討し、運営に反映させている。</p>	/	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員用休憩室、研修室を確保してある。 ・年2回の健康診断を実施し体調管理に努めている。 ・勤務表作成に当たり希望休を確認し勤務の調整をしている。 	/		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・資格取得に関する情報を、連絡帳に貼り付け全員が周知できるようにしている。 ・各必要とされる研修に参加し勉強会に取り入れている。また、研修報告書を作成し職員全員に回覧し確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・外部の研修の際に情報交換し、スタッフ会議で話し合いケアの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・サービス開始前にお会いしてお話を聞いている。状況により、お試し利用、短期利用、通所介護等で施設に慣れ親しんで頂いている。 ・利用者と同じ目線に立ち、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族と話をさせていただき、何を希望されているのか、家族の方が、どこまでなら協力いただけるのか、また、それに対し事業所としてどのような対応が出来るのかを検討し、安心できる関係づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・これまでの生活や、サービス利用状況を把握し、本人や、ご家族の方が今どうしてほしいのか、何を必要としているのかを会話の中で確認しながら、各サービスの選択ができるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・「人生の先輩」という考えから、日常生活の中で教えていただくことが多々あり、共に支え合える関係づくりを心がけている。 ・一緒に野菜作りや、散歩をしながら、寄り添い、話を聞くようにしている 		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時に、状況説明をしたり、家族のことをお聞きしたりして、意思の疎通を図っている。 ・行事案内をし、参加していただき、一緒に食事をしている。 		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族のほか、友人、知人の方に自由に訪問していただき、一緒にお茶を飲んだり、外出していただくこともある。 ・利用者からの希望で電話をしたりしている。 ・行きつけの理容室の方に送迎して頂きヘアカットされる方もいる。 	<p>利用者の親戚や友人、知人、以前住んでいた近所の人、馴染みの神父が来訪している。</p> <p>職員は遠方の親戚から利用者へ届いた母の日のプレゼントや菓子、衣類などへの礼状を利用者の写真を添えて出せるように支援するとともに、電話の取り次ぎをして馴染みの人との関係が途切れないように取り組んでいる。</p> <p>利用者は友人の協力で選挙の投票に出かけたり、行きつけの理美容院の協力で送迎付きで利用している。</p> <p>職員は馴染みの理美容院に来訪してもらうよう連絡調整をし、関係が継続できるよう支援している。</p>	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う利用者同士の席の把握をしている。 ・本人に出来る事（洗濯干し、たたみ、食事の準備、片づけ等）を利用者が協力しあいながら行えるよう支援している。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退所され、老健等に入所された方の所に訪問したり、迎えに行き一緒にお茶を飲んでいただくなどしている。また、家族交流会に招待している。面会時に家族の方が立ち寄っていただけることもある。 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で、常に声掛けを行い利用者の気持ちが把握できるよう努めている。 意思決定が難しい利用者には、複数の選択肢を用意したり、家族からの情報を基に支援し、介護記録に残し職員間の共有を図っている。 	<p>職員はアセスメントにより利用者の生活歴や思いを把握するとともに、「介護日誌」に会話の内容ややり取りを記録し、共有して支援に努めている。</p> <p>さりげなく話しかけたり、利用者にとっての話し易い場面に配慮して希望や悩み等を聴き、利用者の心にそった支援ができるように努めている。</p> <p>思いの把握が困難な利用者の場合には家族等から話を聴いたり、支援時の話し方や表情、しぐさなどから思いを汲みとるよう努め、利用者本位に検討している。</p>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 本人、家族、友人等から話を聞いたり、入居前のケアマネから情報を聞くなどして把握している。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の生活の中から、生活リズムを把握し、残存能力を活かせるようなケアに努めている。また、個人記録に記入することで情報の共有を図っている。 		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> 本人、家族、友人等から話を聞いたり、入居前のケアマネから情報を聞くなどして把握している。家族との話し合いのデータと、日常生活状況をスタッフ会議の中で話し合い、状態に合わせ短期計画の期間の変更等介護計画の作成に活用している。 	<p>介護計画は利用者や家族等の意向や課題を把握し、計画作成担当者を中心に職員で話し合って作成している。</p> <p>家族等の来訪時や遠方の家族等には郵送して確認を得ている。</p> <p>毎日の支援の中で記録している「介護計画実施表」を参考にしながら毎月の職員会議時に検討して介護計画を見直し、必要な時には現状に即した介護計画に変更しているが、短期目標と長期目標を区別して記載したり、変更日を明記するまでには至っていない。</p>	<p>介護計画は短期目標と長期目標が区別できるよう分けて記載するとともに、介護計画を見直した時には変更日を明記することが望まれる。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護日誌に日常の記録として記入しており、その他、詳細、引継ぎ事項は支援経過記録に記入してある。 ・変化がある場合は、毎朝のミーティング時に説明し、情報の共有を図っている。また、連絡ノートを作り、記入することで共有を図ることが出来職員同士が同じケアが出来ている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・外出や外泊、通院や送迎の必要な支援等において、本人、ご家族と相談しながら支援している。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の消防団の方に協力を頂き、避難訓練を実施している。 ・近所に買い物に出かけたり、訪問理容や送迎理容のサービスを活用している。 		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、家族が希望するかかりつけ医を契約時に確認し、希望に沿えるよう支援している。職員が受診に同行した場合は、変化時は家族に状況の報告を行っている。また、受診が困難な状況な時は、母体の診療所の医師に往診をお願いし診察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や家族等が希望するかかりつけ医を担当医としており、家族等と協力してかかりつけ医や専門医への受診を支援している。 職員が付き添った場合は受診結果を家族等に電話で報告するとともに、記録して全職員で共有している。 利用者の受診が困難な状況の場合は、運営母体系列の診療所の医師が往診している。 	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・急変時は隣接する特養の看護師が来て状態を確認して医師との連携を図っている。 ・特養看護師を訪問したり、来てもらったりして状況の報告や相談をしている。 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は、サマリーを作成し医療機関に提出している。 ・面会に行き病院側から情報を得たり、家族からお聞きしたりして、回復状況の把握をし、退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・当施設では、自立が入居の条件になっており契約時に説明し納得いただいている。重度化になった場合は、本人や家族の意志を踏まえ、医師、職員が連携を図り、充分説明し理解を頂き、病院や老人保健施設等の紹介等必要な支援を行っている。	事業所では自立していることが入居の条件になっており、重度化した場合や終末期の対応を契約時に十分説明して同意を得ている。利用者が重度化した場合には、利用者や家族等の意向を踏まえて医師や職員が連携を図りながら病院や介護老人保健施設の紹介など、必要な支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・スタッフ会議時にマニュアル、研修内容等を基に勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・災害時に備え飲料水、食糧、排泄用品等の備蓄を準備してある。 ・消防署、消防団の協力を得て、避難訓練を実施している。また、緊急時に職員が駆けつける時間を確認するために緊急連絡網を回している。 ・避難訓練実施時には、近隣の方にお知らせをしている。	消防署立会いのもと夜間想定を含めた避難訓練を年3回実施するとともに定期的に設備点検を行っている。 訓練には近隣住民にも知らせて参加を得るとともに、近隣の2つの消防団や併設している同一法人の特別養護老人ホーム、通所介護事業所が参加している。 訓練の結果は記録して課題や反省点等を話し合っている。 災害の発生に備えて風呂の水の汲み置きや飲料水、排泄用品、毛布、発電機、電池等を備蓄するとともに、食糧については定期的に点検している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人情報同意書に署名、捺印して頂き情報等に注意している。 ・利用者の自尊心を傷つけない様、場に応じた声掛けを心がけている。また、排泄時や入室時にも声掛けを行い、自己決定を図り、プライバシーを大切にしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、特に排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないように目立たずさりげない言葉かけや対応に努めている。 契約時に書面で個人情報取扱についての同意を得るとともに、個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管するなど、取り扱いには十分注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者に寄り添い、話の中で本人の気持ちがうまく表現できるような支援を心掛けている。また、うまく表現できない利用者には、いくつかの選択肢を具体的に提示し意思決定していただく事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の意思、意見を取り入れながら、季節に応じた催し物や外出を企画している。しかし、当日になって変わる場合もあるため、その都度確認し本人の意思に任せて、無理強いしないように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・着替え等は、本人が選んでいただいている。外出時等は、ヘルパーと一緒に洋服を選んだりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、生活改善委員会を開き、栄養士にも参加していただき、食事のメニュー、行事食等意見の交換をしている。 ・月1回の外食、出前を実施している。 ・利用者の状態に応じて、調理方法や盛り付けを変えたり、嫌いなものを代替する事もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回事業所の栄養士と職員、利用者で生活改善委員会を開き、1ヶ月の献立や行事食を話し合っている。 ・月1回外食と出前を取り入れるとともに、パンケーキなどのおやつを手作りして変化を付け、食事が楽しみなものとなるよう工夫をしている。 ・職員は利用者の状態に応じて調理方法や盛り付けを変えたり、嫌いな品には代替品を提供するなど工夫をしている。 ・利用者は交代で野菜の下ごしらえや配膳、献立の読み上げ、後片付け、テーブル拭き、食器洗い、食器拭き、米研ぎなどの役割を担っており、職員は楽しい雰囲気ですら食事ができるよう支援している。 	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量、水分量は職員全員がすぐに把握できるよう記録している。 ・毎日の献立メニューは隣接する施設の管理栄養士が作成しており、本人の食べ易い形状（刻み、お粥）等も確認し対応している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者全員にはみがきの実施を声掛けし、状況により介助しながら支援している。（食後のうがい、入れ歯の洗浄、はみがき） ・夜間は義歯をポリドントに浸し消毒している。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の各居室にトイレが設置されており排泄は各自居室で対応している。 ・自分で訴える事がうまく出来ない利用者にはプライバシーを配慮しながら声掛けを行い介助している。 ・排泄に失敗してしまった場合も、自尊心を傷つけないよう声掛けを行い対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの居室にトイレを設置し、利用者のプライバシーに配慮しながら排泄の自立に向けた支援に努めている。 ・自立して行えなかったり、訴えることがうまくできない利用者には、プライバシーに配慮しながら時間を見計らって声かけをし、支援をしている。 ・夜間はおむつを使用している利用者もいるが、尿取りパッドで対応し、できるだけおむつを使用しないで済むような支援に取り組んでいる。 	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の有無、水分量を確認。排便がない場合は、自然排便を促すような食品の喫食を勧めている。(牛乳、ヨーグルト、サツマイモ)等 ・本人に確認し、ごぼう茶を飲んでいただいたり、運動、散歩、腹部マッサージを実施している。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には入浴は毎日実施している。本人の希望により、シャワー浴、清拭へと変更する事もある。また、午前中、午後の入浴、浴室が2カ所あるため各ユニット交互に使うなどして、利用者の希望に出来るだけ添えるよう支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には毎日午前と午後に入浴ができるよう体制を整えているが、利用者の希望や体調によりシャワー浴や清拭などの対応もしている。浴室からは坪庭が楽しめ、季節毎に菖蒲湯や柚子湯にするほか、入浴剤を変えて気分転換を図っている。 ・入浴を拒む利用者には、時間を変えたり声かけの仕方を工夫して無理のないよう支援している。 	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調を配慮しながら、日中の活動を促している。 ・寝つけない利用者には、本人の希望で、会話したり、塗り絵をしたりして落ち着いていただいている。 ・本人の希望でホットミルクを飲んでいただく事もある。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者毎のファイルを作成し、目的、用法用量、副作用等について、職員が把握できるようにしている。 ・薬は食事介助者が手渡しで服用して飲んだことを確認している。また、変更があった場合は、服用後の状態を医師に報告している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が今、それぞれに出来ること、生け花、食事準備、配膳、片付け、食器洗い、拭き、掃除、洗濯干し等無理強いをせず、各自役割を持ってお手伝いしていただいている。 ・塗り絵、読書、散歩等それぞれの趣味で気分転換できるよう支援している。 ・入居前に畑づくりや草取りを趣味や仕事として行っていた方は、本人の希望で職員と一緒にいただいている。 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は、庭や、近所を散歩したりしている。庭でお茶、食事をして季節を味わっていただいている。 ・月1回の外出、月2回の買物に出かけたり季節の行事にあわせ外出の支援をしている。 ・家族の協力でお墓参りや、自宅、外泊等でかけている。	利用者は天気の良い日には近所に散歩に出かけたり、庭でお茶や食事を楽しんでいる。 年間行事計画を立て、季節に合わせて花見やぶどう狩りなどに出かけるほか、近くの海岸への外出を支援し、自然を感じながら気分転換や五感刺激の機会となるように努めている。 月1回の外出や月2回の買い物を支援するとともに、家族等の協力を得て墓参りや自宅に外泊ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご家族よりお預かりした現金は、事務所で保管させていただき、外出、買物の際は、職員見守りで自分で支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者から自宅や娘様に電話することが多く支援している。家族から電話があった場合は、コードレスで居室でお話していただいている。手紙については本人に手渡しして読んで頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各ユニットごとに行き来が出来るようにしていただいている。ソファがあり、常に談話されたり、ゲームをしたりして楽しまれている。 ・廊下や食堂には季節の装飾品や花を飾り季節感を感じられるようにしている。 ・サンルームと庭にテーブルとイスが備えられていて、自由にお茶を飲んだり、おしゃべりしたりしている。	居間や廊下の天井が高く四方から光が入るよう設計されており、明るくゆとりのある空間で利用者は穏やかに過ごしている。 居間続きのサンルームとベランダにテーブルと椅子を置いてお茶を楽しみながら寛いで過ごせるよう配慮している。 居間に足湯の設備やフットマッサージ機を備えたり、ソファを置いて利用者同士がおしゃべりをしながら居心地よく過ごせるよう工夫している。 居間に庭から切ってきた笹竹を飾り、利用者の願いを書いた短冊や職員と利用者で作った七夕飾りをつけたり、季節の花を生けるなど、季節感のある環境づくりをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・庭の椅子や、玄関の椅子、サンルームやフットマッサージ器を設置し利用者が自由に過ごせるようになっている。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居の際にお話して、できるだけ本人の使い慣れたものをお持ちいただいている。洗面台、トイレが備え付けられているがテレビ、冷蔵庫、写真、人形等各自で持ってきて自由に飾っておられ自分らしい居室になっている。			居室にはベッドのほか洗面台やトイレが備え付けられ、利用者の自立した生活を支援している。 利用者は居室にテレビや冷蔵庫、時計、使い慣れた椅子、額絵、カレンダー、本、家族等の写真、人形などを持ち込んで居心地よく過ごしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者の状態に合わせ、トイレ、廊下、浴室等に手すりを設置、各居室など安全確保を心がけ、自立への配慮をしている。			/

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 和みの家

作成日 平成24年11月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	介護計画は短期目標と長期目標が区別できるよう分けて記載するとともに、介護計画を見直した時には変更日を明記することが望まれる。	現在の書式の中で、長期目標、短期目標の区別はしてあるが、目標の期間が入っていないため、期間の記入欄を設ける。	新規入居者及び更新時期で計画を作成する対象から、随時「期間」の欄を設けた書式で作成する。既存の計画については、「目標」枠内に期間を追記する。	2012年12月31日
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。